

川島宏治の

プラス1

サンポール(広島市中区)社長 山根 以久子さん

サンポール(広島市中区)は、国旗や社旗などを掲げるアルミ製の旗ポールと、駐車場などに設置する車止めのトップメーカーである。旗ポールは4月に広島市で開かれた先進7カ国(G7)外相会合で参加国の国旗を掲揚。車止めは夢と機能を融合させた製品が評判を呼ぶ。



ながら社員の意識改革をし、自社工場の建設や社員提案の製品開発などを推進。女性の感覚を生かし、「外部空間を豊かにクリエイトする演出者」を目指す。

2面に続く

<サンポール>本社は広島市中区南吉島2丁目。1970年に中区袋町で旗ポールの製造販売で創業。1980年代に車止めの製造を始め、業績を拡大。東京支店のほか昨年4月にタイ・バンコクに駐在所を設けた。今年9月期の売上高は46億5千万円。従業員175人。

「川島宏治のプラス1」は今回で年内の放送を終わります。17~31日は、番組に今年登場した方々を再放送します。新年は元日から放送します。

中国新聞グループのケーブルテレビ 5chピCOMで放送中!

川島宏治の

プラス1

1面から続く

サンポール(広島市中区)社長 山根 以久子さん

後の一生はないと思った。具体的な旗ポールの事業はよくできていて、そこがどうするかですね。

「社員は」外ばかり目が向いていた。まず会社の組織をきちっとして、私を中心に物事がなっていくように思っ

た。もうひとつは、先代社長が憲法みたいな感じがあって、「なんでこれをするの」と言っていると「さあ?」。昔からやっているから。そういうところがみんな疑問を持つことが大事かなあと思った。

「(昨年1月) 自社工場を建てられました。50年近く外注していた社員が作り方を知らない。ある程度できたものが来て、組み立てて製品にするから、部品にするところは知らない。それが怖いなと思った。

勝手に周りは動いている。毎日、ただ会社に行っただけという感じでした。決意ができたのは5年目ぐらい。私しかやる人がいないと。すると自分がやりたいことが見え

てくる。そこから始まり。何をしていたか分からない時代は、ここで逃げ出したら今

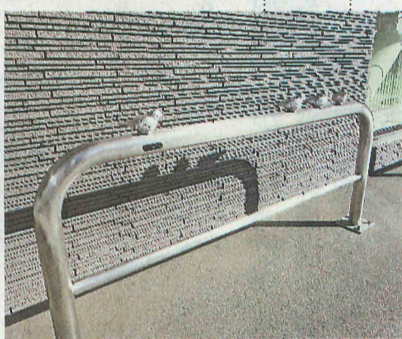
旗ポールとか車止めとかいろいろありますね。全国のシェアトップでしょう。



やまね・いくこ 大阪女子大(現大阪府立大)社会福祉学科卒。結婚を機に専業主婦となる。会社の創業に関わった社長の父親が2002年に亡くなり、06年から後を継いだ。趣味は音楽、美術、演劇鑑賞。出雲市出身。61歳。

新たな製品開発や会社経営への夢を語る山根さん

夢と機能を融合させた車止めの「ピコリン」



車止めメーカーとして最初に出したのが「ピコリン」。発想は当時の女性の専務。小鳥が4羽いて一つは向きが違

「社員が幸せになるために売り上げを上げる」。そう考えた。私にもできると思っ

出ないかもしれない。社員の満足度も大事ですね。

て、大手さんの一部門で照明ポールを作っているところがやられていた。うちの今の売り上げは最盛期の頃の3分の1ぐらい。照明ポールは何本も立つけど、旗ポールは建物

「自分もほほ笑い、仲間もほほ笑い、社会の人たちもほほ笑い」。それが私の一番大事なことかな。

「自分がほほ笑い、仲間もほほ笑い、社会の人たちもほほ笑い」。それが私の一番大事なことかな。

山根さんの放送はちゅピCOMで10日から16日まで。放送時間は原則、ふれあい・ひろしまが午前10時、午後7時、同11時半、おのみちが午前10時、午後4時、同11時半。放送時間は変更になることがあります。本紙朝刊番組欄などでご確認ください。

すぐ行動できるよう平穏時に準備